

03・【耳舐め】脳を溶かす魔女のあまあま耳舐め

『02・いけない誘い』からそのまま続き。

十一月上旬。時間帯は十六時半ごろ。天気は雨。外の気温は十三度程度で、部屋は暖かい。

雨は気づくと止んでいる。だが、外はかなり冷える。

・※ここから、左耳（向かって右）→右耳（向かって左）の順で、各5分程度（合計10分程度）舐める。その間、次の簡単な流れ（□内の指示）に沿って、セリフを任意のタイミングではさむ。

※セリフはすべてささやき※

●左【すべてささやく】

【舐め始める。しばらく、耳のふちを、優しく舌で形をなぞるようにたつぷり舐める】

「【優しくささやく。笑い声も小さめに】

あはは。気持ちいいですか？ 麻酔の効果様々（きまさま）ですね」

【耳の中へ舌を入れていく。少しづつ奥へ入り込んでいくイメージ。優しく、丁寧に、丹念に舐める】

「【耳の奥に向かって優しくささやきかけるイメージ】

※聞き手をドキッとさせるイメージでお願いします※

可愛いですよ。……ずっとこうしたかった」

【耳の中から奥へ向かって、ちゅぱちゅぱ、丹念に舐める】

「【優しくささやく】

※聞き手をドキッとさせるイメージでお願いします※

大好きですよ。

【呼吸を整えようと甘く息を吐く。結果的に『耳ふー』っぽくなる】

ふう、ふう……。

【少し苦しくなつて いたのをごまかそ うと、意地悪を言 う】

あなたが感 じてるとね？  
あたしちゃんとわからんです。だから隠さなく ていいですよ♥】

【いっぱい 気持ちよくしよ うと、熱心に舐める】

【耳舐めがちよつと激しくなる。耳の奥の方を、くぱくぱと丹念に舐める】

【主人公を愛撫できるのが嬉 しい。すっかり夢中になつて いる】  
ん……ふつ。はあ……可愛い……】

【引き続き耳舐めがちよつと激しくなる。耳の奥の方を、しつかりと舐める】

【やがて少しずつ、緩やかな舐め方に戻る。そろそろこちら側は終わりのサイン】

【満足げにささやく】

あは。お薬のおかけか、とろつとろになつてくれてるみたいですね♥】

※ここから移動※

※ささやき、いつたんストップ※

●右 至近距離

「くわえたまま話すせいで『こっちも』が『こっちも』になる」

「こっちも……」

※ここから再び、次の簡単な流れに沿って、セリフを任意のタイミングではさむ。

※セリフはすべてささやき※

●右 【すべてささやく】

【舐め始める。先ほどと同じように、しばらく、耳のふちを優しく舌でなぞるようにたつ  
ぶり舐める】

【耳の中へ舌を入れていく。先ほどよりも、少し激し目にする】

「ふと思い出したように、舐めるのを止めてゆっくりささやく」  
あなたつてさあ。泣いてる顔めっちゃ可愛いですよね。

涙で目えぐすぐすにしてるのとか、すごいエロい」

●右 軽く吹く

【耳の中を、ふつと一度吹く】

【先ほどよりも、少し意地悪に、しつかり耳を舐めて攻めていく】

「ふと思い出したように、舐めるのを止めてゆっくりささやく】

あなたが泣く度、あたし変な気持ちになつてたんです。

それから……絶対何とかしてあげたい、もう泣かなくて済むようにしてあげたいって思つてました。泣いてる顔エロいとか思つてるくせに、おかしいですよね」

【耳舐めがさらに少し激しくなる。ただし、音を立て過ぎないイメージ】

「ふと思い出したように、舐めるのを止めてゆっくりささやく】

だから誰にも見せて欲しくなかつた。

こんなの見せられたら、みんなあなたの事好きになるでしょつて思つてたんですよ】

〔丁寧で優しい耳舐めに戻る。奥の方を丹念に舐める〕

「【満足げにささやく】

でも。これからはあたしだけのあなたになりますからね。

安心です♥」

〔少しづつ、緩やかな舐め方に戻る。そろそろこちら側は終わりのサイン〕

「【ひとりわ優しくささやく】

※聞き手をドキッとさせるイメージでお願いします※

大好きですよ。あたし、ほんとにあなたが大好きです」

※このセリフを言い終わり次第、耳舐め終了。そつと耳元から離れる※

●中央 上 至近距離

「【少し意地悪に。主人公がたっぷり感じてくれて嬉しい】

ん？ そろそろお耳だけじゃ足りなくなつてきましたか。

そうですよね。こんなに抵抗したいのに、あなたの身体の方は、大好きな人とセツ

クスしてゐみたいに気持ちいいんですもん。

おかげであなたの事、恋人気分で犯せます♥

主人公、たっぷり気持ちよくなつて、涙に濡れた目でサリアを見上げる。サリアはそれが可愛くてたまらない。

治療を少しでも早く、円滑に済ませるためにも、もつともつと感じさせたいと思う。

だがサリアは、きっと主人公は『こんなのは嫌だ』『今すぐにやめてほしい』と思つて  
いるに違いない……。と考えてしまう。

自分は決定的に嫌われて、自分たちの関係は壊れたのだと。

実際には、主人公の表情だけでは、そんな事はとても読み取れない。

サリアがこの行為に強い罪悪感を感じているから、そう思えてしまうだけだ。

### ● 中央 上 至近距離

「わざと悪っぽく。少し意地悪に」

やめる訳ないでしよう。

あなたはこれから。あたしに全部奪われるんですよ♥

このままフードアウトして終了。